

人権教育全体構造図



学校教育目標

「学びを通して 共生 共感 創造 を育みます」

1. お互いを思いやり、認め合い、社会に貢献しながら共生できる生徒を育みます。 (公・開)
2. 自分らしさを豊かに発揮し、心身の健康を考え、安全・安心な生活を送ることのできる生徒を育みます。 (徳・体)
3. 興味関心を広げ、自ら創造・工夫をし、課題に取り組み、夢を持ち未来をたくましく切り拓いていく生徒を育みます。 (知・徳)

人権教育がめざすもの

「だれもが」「安心して」「豊かに」生活できる学校
 自分の人権を守り、他の人の人権を守ろうとする意識・意欲・態度の育成
自尊感情の育成

横浜吉田中学校人権教育目標

1. 自分をかけがえのない存在と実感できるよう、自尊感情を育てます。
2. 他の人を尊重し、ともに協調して生きていけるよう、豊かな人間性を育てます。
3. 互いの違いを理解し、異なる文化を持つ者同士が共生できる力を育てます。

知識的側面

態度的側面

技能的側面

人権教育指導の重点

1 学年	2 学年	3 学年
さまざまな活動を通して一人ひとりに違いがあることを知り、お互いの個性や立場を尊重しあいながら、ともに生きる態度を育てます。	一人ひとりの違いや背景にある文化に関心を持ち、互いの文化を尊重することによってより豊かな社会を実現することに気づくよう、協力、協調する態度を育てます。	一人ひとりの違いや背景にある文化を尊重し、身近にある人権にかかわる問題を自分と重ねてとらえる感性を高め、豊かな社会を実現するために行動する態度を育てます。

教科、道徳、特別活動、総合、その他の教育活動における取組

- ・ 人権教育目標を各教科の授業を通して具現化する。
- ・ さまざまな人権課題を主題とした道徳授業を展開する。
- ・ 学級活動や生徒会活動、行事を通して自尊感情を育むとともに、互いに協力、協調する態度を育てる。
- ・ よこはま子ども国際平和スピーチコンテスト、人権作文に全校で取り組む。
- ・ 外国籍・外国につながる生徒一人ひとりに応じた支援を国際教室が中心となって行う。
- ・ 特別な支援を必要とする生徒に対し、学年、個別支援学級、国際教室等が連携して適切な支援を行う。

目標具現化に向けて

- 生徒理解…生徒一人ひとりの背景や課題の理解に努め、職員の共通理解を図り、チームで対応する。
- 学力保障…すべての生徒が学ぶ意欲を持てるよう、「わかる授業」の実現に向けて取り組む。
- 人権意識の育成…道徳や総合の授業、行事を通じ、人権尊重の意識と実践力を養うことを目指した学習活動を展開する。
- 小中連携…連携を密にすることで中学校ブロックの児童、生徒がもつ課題を共有し、支援に活かす。
- 職員研修…地域の特色や歴史について生徒と共に学ぶとともに、教職員の学習機会を設け人権意識の高揚をはかる。